

第七章 町家の京言葉における分類別あいさつ言葉

私は、京言葉におけるあいさつ言葉の用例を分類別に記し、漢字平仮名交じり文としたものと意味・説明とを加えた未公開の表を、既に作成している。この表は、限られた範囲で配布・利用した。今回この表を本書に収めようとするにあたり、字が小さくなってしまうので、表を解き、列記する中でできるだけ分かりやすい表記を試みた。そのため、本章では他の章とは異なる、用例の記述の方法となっている。

内容的に他の章の用例と重複する部分があるが、などの記述は入れず、著書Bの記述を参考にして、京言葉におけるあいさつ言葉を二八の場面に分類して記したものである。カード整理を試みた手元の全用例を他の章とこの章とで、すべて収録したことになる。尚、この全用例は手元の調査テープにより、若干の増補の余地がある。

第三章第二節の一四、あいさつ・あいさつ言葉の種類において、佐藤虎男氏・藤原与一氏のあいさつ言葉の分類を取り上げた。その際私の分類についても記した。それをふまえ、以下町家の

京言葉におけるあいさつ言葉を分類別に記述していく。

1 外出する時のあいさつ言葉

「外出と帰宅に際してのあいさつは日本語の特色であるようだ。（…中略…）外出と帰宅に特別なあいさつ言葉があるということは、内と外、身内とよそものの区別や家というのが、日本人の意識に強く働いていることの現われかもしれない。」（奥津敬一郎氏・沼田善子氏「日・朝・中・英のあいさつ言葉」）（既出）

① イ（ッ） テサンジマス。（行（っ）て参じます。）

【意味・説明】 行つて参ります。

「サンジマス」は商人または年配の人が言うが、「イッテサンジマス」は子供が学校へ行く時にも、家によっては言う。

② チョットイッテキマス。（ちょっと行つて来ます。）

【意味・説明】 外出の時に家人に対して言う。

2 家人が外出する時のあいさつ言葉

① イツオカ「イ／エ」リル。（いっお帰るる。）

【意味・説明】 外出する同等・目下に対して言う。

② イツゴロオカ「イ／エ」リヤスヤロ。（いつ頃お帰りやすやろ。）

【意味・説明】 外出する目上に対して言う。

「オゝヤス」に動詞連用形を挿入した敬語表現はよく使われる。

③ イットイナイ。（行つとしない。）

【意味・説明】 行つておいで。

外出する同等・目下に対して言う。少しぞんざいである。

④ オハヨーオカ「イ／エ」リ「ヤシテオクレヤス／ヤス」。

（お早ーお帰り「やしておくれやす／やす」。）

【意味・説明】 出かけていく人に言う。学校に出かける子供たちに、親が言う。

「オハヨーオカ」「イ／エ」リ」はぞんざいで目下に。「オハヨーオカ」「イ／エ」リヤシテオクレヤス」は目上に対して言うことが多い。尚、花街では忌んで言わない。

⑤ ヨーキーツケテ、コケンヨーニイッテオイデ。(よー気ーつけて、こけんよーに行っておいで。)

【意味・説明】 見送る側が子供に対して言う。

⑥ ヨリミチセント、サツサトヨースマシテカエツクルンドッセ。

(寄り道せんと、さつさと用済まして帰って来るんどっせ。)

【意味・説明】 見送る側が子供に対して言う。

3 帰宅した時のあいさつ言葉

① イ(ツ) テサンジマシタ。(行(っ)て参りました。)

【意味・説明】 「サンジル」は参るの意。

帰宅の時に目上に対して言う。

② タダイマ「カエリマシタ／モドリマシタ」。(ただいま「帰りました／戻りました」。)

【意味・説明】 帰宅の時に目上に対して言う。学校から戻ると、子供たちは親にこう言った。

(加注) 「動詞部分にカエルを使う地点は、全国に散在している。ところがモデルには、はっきりした領域―石川県から和歌山県を結ぶ線以西(ただし九州西部を除く)―が認められ、その線以东では、わずかに佐渡・津軽および八丈島にだけこの動詞が使われていることがわかる…」(徳川宗賢氏「オーキニからオシズカニまで―あいさつことばの地域差」(既出))

「モデルということばは新しいものであるか。」(徳川宗賢氏 同右)

4 家人が帰宅した時のあいさつ言葉

① オカ「イ／エ」リ(ヤス)。(お帰り(やす)。)

【意味・説明】 帰宅した家人を迎えて言う。